

厚生労働行政推進調査事業費補助金（障害者政策総合研究事業）

分担研究報告書

技術革新を視野に入れた補装具費支給制度のあり方のための研究

視覚障害に関する補装具の選定・処方時アセスメントシートとフォローアップシートの開発
(中間報告)

研究分担者 山田明子 国立障害者リハビリテーションセンター病院 リハビリテーション部

研究協力者 清水朋美 国立障害者リハビリテーションセンター病院 第二診療部

松井孝子 国立障害者リハビリテーションセンター病院 リハビリテーション部

齋藤崇志 国立障害者リハビリテーションセンター研究所 障害福祉部

研究要旨

補装具費支給制度を利用して購入した視覚障害に関連する補装具を、当事者が安定して継続活用できる仕組み作りの一環として、筆者らは次の2種類のシートの開発に着手した。

1つ目は補装具の選定・処方時に確認すべき項目をチェックすることで、選定・処方する側がロービジョンケアや補装具費支給制度に不慣れな場合でも、標準的な選定・処方が可能となることを目的としたアセスメントシート、2つ目は、処方後に補装具が継続活用されているかどうかを客観的に評価することを目的としたフォローアップシートである。

視覚障害に関連する補装具である「義眼」「視覚障害者安全つえ」「眼鏡」の3つの検討グループを作成し、修正デルファイ法を用いて各チェック項目の検討を行った。

各グループには、1) 各補装具の選定、処方、訓練に携わる者、2) 各補装具を使用している者、3) 各補装具の選定、処方、訓練はしていないが、補装具を使用する者と関わることがある医療・福祉・介護に関する専門職が各1名以上メンバーとして参加するチーム構成とした。

現在、開発の途中ではあるが、視覚障害に関連する補装具については、今までに決まった選定・処方の手順や評価ツールは存在せず、補装具の適切な選定・処方と継続した活用を目的としたアセスメントシートとフォローアップシートの開発は初めての試みであった。選定・処方に関わる医療者だけではなく、実際に活用している視覚障害者当事者や作製や販売を行う業者、使用方法等を訓練する訓練士といった視覚障害に関連する補装具に関わる多職種が集まり、意見交換を行う中で、問題意識を共有し、多方面から検討することができた。

A. 研究目的

障害者総合支援法に基づく福祉用具の中には補装具と日常生活用具がある。

視覚障害に関連する補装具(以下、視覚系補装具)には「義眼」「視覚障害者安全つえ」「眼鏡」の3種目がある。そのうち眼鏡は、矯正用、遮光用、コンタクトレンズ、弱視用に分類され、弱視用はさらに、掛けめがね式と焦点調整式の2種類に分類される。

現在の公的制度では、視覚障害の身体障害者手帳を取得した場合、または障害者総合支援法の対象疾病であり身体障害者手帳取得可能な視機能と認められる場合には、「義眼」「視覚障害者安全つえ」

「眼鏡」を購入する際、補装具費支給制度を利用することができる。

多くの視覚障害者が、この制度を用いて必要な補装具を購入しているが、購入後に、うまく活用することができなかったという声も少なくない。

昨年度行った「視覚障害児・者を対象にした補装具および日常生活用具の活用実態の調査」の中でも、うまく活用できず、使用しなくなったという報告があり、その理由のひとつとして、購入時のアセスメントや購入後の訓練の必要性が示されている¹⁾。

特に、「視覚障害者安全つえ」は補装具費支給制度を利用する際、眼科医師による意見書を省略できることもあり、「視覚障害者安全つえ」に精通する

専門家（歩行訓練士等）につながることなく、市町村等の窓口などでカタログから安易に選択した結果、あっていない杖を選択、購入したことで活用できない場合や、購入しても使い方がわからずに使用しないといった状況が生じている。

また、医師による意見書が必要な「義眼」や「眼鏡」であっても、統一した選定や処方に関する基準や正しい処方であるかを評価するツールは国内外においてまだ開発されていない。そのため、選定や処方を行う眼科医や視能訓練士等専門職のロービジョンケアに関する知識や補装具費支給制度に関する知識が足りていない場合には、処方後に活用ができず、使用継続できないこともありうる。

さらに、補装具費支給制度を活用して購入された補助具を継続して活用できているかを確認する共通したツールも存在しない。

以上のような現状から、補装具購入後も継続して活用できる仕組み作りとして、選定・処方時に確認すべき項目をチェックすることにより、選定・処方する側がロービジョンケアや補装具費支給制度での支給に慣れていない場合でも、標準的な選定・処方が可能となるアセスメントシートと、処方後も処方された補装具が継続して活用できているかを客観的に評価することができるフォローアップシートの作成が必要と考えた。

以上の背景から今回は、補装具の選定・処方およびそのフォローアップに関わる多職種と連携し、選定・処方時のアセスメントシートと購入後のフォローアップシートの開発に取り組んだため報告する。

なお、このアセスメントシートおよびフォローアップシート検討は現在も継続中あり、本報告では、その途中経過について報告する。

B. 研究方法

本研究では、視覚系補装具に関するアセスメントシートおよびフォローアップシートについて、先行研究に関する事前調査において、参考とできる評価ツールを確認することができなかつた。そこで、十分な根拠が不足している場合に専門家集団の合意に基づく見解を根拠として呈示するデルファイ法のう

ち、意見集約における匿名性は保持した上で、専門家集団が顔を合わせて「対面式の検討」を行う修正デルファイ法を用いて検討を行った。

デルファイ法とは、意見を聞くべき人に自由に討論してもらった結果をフィードバックしながら結論を詰めて行く方法である²⁾。

具体的には、本研究の研究責任者および研究分担者が作成した「義眼」「視覚障害者安全つえ」「眼鏡（矯正用）」「眼鏡（遮光用）」「眼鏡（コンタクトレンズ）」「眼鏡（弱視用 焦点調整式）」「眼鏡（弱視用 掛けめがね式）」の7種類のアセスメントおよびフォローアップシートのチェック項目原案（表1）について、「義眼」「視覚障害者安全つえ」「眼鏡（矯正用・遮光用・コンタクトレンズ・弱視用）」の3つの検討グループを作成し、以下の手順（図1）によって検討を行った。

手順1：修正デルファイ法を実施する対象者（以下研究協力者）を機縁法で招集（資料2-手順1）

「義眼」「視覚障害者安全つえ」「眼鏡（矯正用・遮光用・コンタクトレンズ・弱視用）」の3グループに所属する研究協力者を以下の選定基準をもとに機縁法で選定し、招集した。

各グループには、1) 各補装具の選定、処方、訓練に携わる者、2) 各補装具を使用している者、3) 各補装具の選定、処方、訓練はしていないが、補装具を使用する者と関わることのある医療・福祉・介護に関する専門職がグループ内に必ずメンバーとして参加するチーム構成とした。

それぞれの選定基準を以下に示す。

<選定基準>

1) 各補装具の選定、処方、訓練に携わる者（眼科医師、視能訓練士、歩行訓練士、眼鏡作成技能者、義眼作成業者等）

①視覚障害に関する補装具「義眼」「視覚障害者安全つえ」「眼鏡（矯正用・遮光用・コンタクトレンズ・弱視用）」のいずれかの選定・処方に携わっている者であり、

②各職種の経験年数3年以上の者

2) 各補装具を使用している者

①視覚障害のために、所属するグループの補装具を使用している者

3) 各補装具の選定、処方、訓練はしていないが、補装具を使用する者と関わることのある医療・福祉・介護に関する専門職

①医療、福祉、介護分野での経験年数が3年以上の者

具体的職種の例については、理学療法士、作業療法士、看護師、保健師、社会福祉士、介護福祉士等とした。

各研究協力者には、本研究の目的や内容を説明し、同意を得た上で招集した。

各グループの研究協力者数は5名以上15名以下とした。

研究協力者は、できるだけ研究分担者以外の者を選定、招集するよう努めた。しかしながら、人材不足で該当する研究協力者が集まらない場合において研究分担者は、いずれかのグループに所属し、研究協力者として、研究に参加してもよいこととし、その際には各グループに研究分担者が所属できる人数は1名と制限した。

手順2「義眼」「視覚障害者安全つえ」「眼鏡」の3つの検討グループに分かれて原案をもとにデルファイ法でチェック項目を検討（資料2-手順2）

以下の手順については、「義眼」「視覚障害者安全つえ」「眼鏡」の3グループにわかれて、実施した。

「眼鏡」ではチェック項目に共通項の多い、矯正用・遮光用・コンタクトレンズ・弱視用（焦点調整式）・弱視用（掛けめがね式）の5種類について検討した。

本デルファイ法では、チェック項目の検討を行うために、以下に示した3ラウンドの過程を設定した。

ラウンド1

1) 第1回 オンライン会議

オンラインでの会議を実施し、原案（表1）をもとに対面で検討を行い、各シートのチェック項目素案について決定した。

2) 第1回 アンケート調査

第1回 オンライン会議で決定したチェック項目素案について、匿名のアンケート調査を実施し、5段階のリッカート尺度（1.非常に重要、2.重要、3.どちらでもない、4.重要ではない、5.全く重要ではない）により評価してもらった。

また、各チェック項目について気になる点について自由記載による意見も収集した。

研究代表者は回答結果を収集し、各チェック項目の中央値（全データを小さい順から並べた時に中央に来る値）と同意率（「1.非常に重要」「2.重要」と回答した人数の割合）を求めた。

ラウンド2

1) 第2回 オンライン会議

ラウンド1-2)で実施したアンケート結果を公表し、自由記載の結果をふまえ、対面で検討を行い、項目の修正、削除、表現の修正を行った。

2) 第2回 アンケート調査

ラウンド2-1)で修正したチェック項目について匿名のアンケート調査を実施し、1回目と同様に、5段階のリッカート尺度（1.非常に重要、2.重要、3.どちらでもない、4.重要ではない、5.全く重要ではない）により評価を行う。

その際、回答者には、ラウンド1-2) 第1回アンケートの結果（各項目の中央値）を参考にして、評価を行うよう指示することとした。

ラウンド3

1) 第3回 オンライン会議

ラウンド2-2)で実施したアンケート結果を公表し、同意率80%以上を得たチェック項目について、対面で検討を行い、表現の修正や、チェック項目以

外の形式について検討し、最終版を作成する。

各チェック項目の重要性の評価として用いる同意率は「1. 非常に重要」「2. 重要」と回答した者の割合とした。

<オンライン会議留意事項>

3回のオンライン会議はMicrosoft TeamsのWeb会議システムを用いて実施した。

所用時間は各60分～120分とし、60分を超えた場合は必ず1回以上の休憩を入れこととした。また、60分以内でも研究参加者が希望する場合には、休憩を入れることとして、会議の始めに研究協力者へ、その旨を周知した。

研究代表者は、各グループのオンライン会議にファシリテーターとして参加し、議事進行の役割を担った。

<アンケート調査留意事項>

ラウンド1、2で実施するアンケート調査はExcelで作成した回答フォームを用いて実施した。

回答フォームは各研究協力者へメールに添付する方法で送り、回答後は回答済みのフォームをメールへ添付して返信するよう依頼した。

アンケートの回答にかかる時間は約15分とし、回答期間は2週間となるよう設定した。

回答フォームでは氏名等個人が特定できる情報についてのデータは収集しないこととし、冒頭には、研究参加の同意確認の欄を設けるとともに、いつでも同意撤回ができるよう配慮した。

視覚障害等の理由で、Excelで作成した回答フォームでの回答が難しい場合には、メールの本文にアンケート内容を記載し、該当する項目以外を削除する、または該当する項目に印をつけるといった各自の可能な方法で回答してもらった。

本研究にあたっては、国立障害者リハビリテーションセンター（以下、国リハ）倫審査委員会で承認を得た（承認番号（2024-113））。

C. 研究結果

c-1. 各検討グループ研究協力者の構成職種と人数

以下、各グループの研究協力者の構成職種と人数を示す。

①「義眼」検討グループ 計8名

眼科医師1名、視能訓練士1名、義眼作成業者3名、義眼を使用している者2名、医療・福祉・介護に関する専門職（看護師）1名

②「視覚障害者安全つえ」検討グループ 計9名

眼科医師2名、視能訓練士1名、歩行訓練士3名、視覚障害者安全つえを使用している視覚障害者2名、医療・福祉・介護に関する専門職（理学療法士）1名

③「眼鏡（矯正用・遮光用・コンタクトレンズ・弱視用）」検討グループ 計9名

眼科医師2名、視能訓練士2名、眼鏡作成技能士2名、眼鏡を使用している視覚障害者2名、医療・福祉・介護に関する専門職（看護師）1名

c-2. 第1回 オンライン会議報告

各グループの第1回 オンライン会議は令和6年12月に開催した。

会議では、各構成メンバーにより、アセスメントおよびフォローアップのチェック項目原案についての検討が行われた。

その際、各グループが検討する補装具の補装具費支給制度を用いて購入される際の選定・処方時の問題点と購入後のフォローアップの問題点について共有し、適切な処方につなげるためには、誰がどのような場面で使用するシートであるかについて確認した。

また、作成するシートは、各補装具 A4 サイズの用紙 1枚程度に収まり、日常の診療業務で多忙な一般眼科でも活用することができるよう簡易で導入しやすいものであることも共有した。

① 「義眼」検討グループ

補装具費支給制度を活用した義眼購入時においては、眼科医師が補装具費支給意見書を記載するが、その選定については義眼作成業者が行うため、選定・処方時のアセスメントのチェックは主に義眼作成業者がチェックするものとした。

一方、購入後のフォローアップについては、診療場面で主に眼科医師がチェックするものとし、グループ間で共通認識を得た。

原案からの修正結果を表2に示す。

アセスメントについては、10項目の原案を7項目、フォローアップについては、7項目あった原案を5項目に整理し、今後、シートを活用する者が評価しやすいわかりやすい文言となるよう語句の修正を行った。

② 「視覚障害者安全つえ」検討グループ

原案からの変更を表3に示した。

10項目あったアセスメント項目の原案は4項目へ、6項目あったフォローアップ項目の原案は5項目と整理された。

アセスメント項目原案の「使用方法について訓練したか」やフォローアップ項目原案の「使い方は適切か」といった問いのように使い方や訓練についてチェックする項目では、訓練を受けたことがないことや、使い方が適切でないことを評価した後、視覚障害者安全つえの使い方の説明や訓練を受けることができる施設につながる必要があるという意見があった。

そこで各地域において、患者が、それぞれの悩みに応じた適切な指導や訓練などが受けられるように、相談先を紹介するものである「スマートサイト³⁾で適切な施設につながる」という文言を追加することとした。

また、「視覚障害者安全つえ」を使用する目的や構造や、アセスメントやフォローアップ項目として用いる用語等について説明する必要性があるのではないかとの意見もあった。

③ 「眼鏡」検討グループ

眼鏡については、主に眼科において、選定・処方・フォローアップが行われることから、出来上がったシートは主に眼科で使用されることを確認し、原案の内容を検討した。

表4に原案からの修正結果を示す。

義眼検討グループと同様に、今後、シートを活用する者が評価しやすいわかりやすい文言となるよう具体的な語句を用いるよう修正を行った。

また、外来診療で多忙な眼科でも活用できるよう、最低限必要な項目であるかを意識して項目を修正した。

c-3. 第1回 アンケート調査について

原案から修正したチェック項目素案について行ったアンケート調査結果を示す。

① 「義眼」検討グループ

8名の研究協力者から回答を得た。

回答結果を表5に示す。

アセスメント項目およびフォローアップ項目すべての項目で同意率は80%を超えていた。

② 「視覚障害者安全つえ」検討グループ

9名の研究協力者から回答を得た。

回答結果を表6に示す。

アセスメント項目では、すべての項目で同意率80%を超えていた。

フォローアップ項目では、「使用しているつえはいつ、どのように購入したか」という項目の同意率が66.7%と同意率が低かった。その理由として、「質問の意図がわからなかった」という意見があった。

フォローアップ項目の他の項目については同意率80%を超える結果であった。

③ 「眼鏡」検討グループ

9名の研究協力者から回答を得た。

回答結果を表7に示す。

アセスメント項目およびフォローアップ項目共に同意率は75%以上と高かった。

弱視用の掛けめがね式の「いくつかの倍率を試して選んだか」と焦点調整式の「いくつか別の倍率を試した上で決定したものであるか」との項目については、「いくつかの倍率を試した上で決定することが理想的であるが、施設によっては、複数の倍率がないところもあるため、処方するハードルが上がるのではないかと、この問題点を解決するためには、貸し出しなどを整備する必要があるのではないかとこの意見が挙げられた。

c-4 第2回 Teamsオンライン会議について

各検討グループの第2回 Teamsオンライン会議は令和7年4月に実施した。

各グループにおいて、第1回アンケート調査の回答結果を共有し、「選定・処方された補装具を継続して活用していただくために必要と思われるチェック項目であるか」という観点をもとにさらに検討を行った。

上記オンライン会議で変更、修正されたチェック項目については、本稿作成中の令和7年4月現在において、国リハ倫理審査委員会のチェック項目に関する変更を申請し、受審結果待ちである。

第2回目のオンライン会議以降の結果については、倫理審査受審結果の出る令和7年6月以降に実施予定であり、次期以降の報告書で報告する。

D. 考察

視覚系補装具の選定や処方およびフォローアップについては、今までに決まった手順や評価ツールは存在せず、視覚系補装具の適切な選定・処方と継続した活用を目的とした選定・処方時のアセスメントシートとフォローアップシートの開発は初めての試みであった。

また、本研究では、視覚系補装具について、その選定・処方に関わる医療者だけではなく、視覚系補装具を実際に活用している視覚障害者当事者や作成や販売を行う業者、使用方法等を訓練する訓練士といった様々な方面から視覚系補装具に関わる多職種が集まり、意見交換を行った。

このように多職種によって、視覚系補装具につい

て多方面から意見交換を行う機会は今までにあまりなく、お互いの問題点について共有することができた有意義な機会であったと思われる。

特に、義眼や視覚障害者安全つえは、選定を行う専門家の視点から意見をもらうことによって、アセスメントやフォローアップのポイントが明確となった。

さらに、それぞれの補装具を実際の生活場面で活用している当事者からの意見は大変貴重であり、アセスメントやフォローアップに含むべきポイントを考慮する上で大いに参考になった。

一方で、アセスメントとフォローアップの検討から、各補装具にまつわる様々な問題点も明らかとなった。

視覚障害者安全つえは、つえを使用する目的や補装具としての杖の分類、持ち方や使い方などが周知できていない現状や選定や使い方の訓練の専門家である歩行訓練士が存在しない都道府県もあり、選定や訓練につなげにくいといった現状についての意見があった。

今後のアセスメント、フォローアップシートの開発では、以上の問題点を踏まえ、今後に向けた改善や取り組みが必要であると考えられた。

一例としては、誰もがアクセス可能な各補装具に関する学習コンテンツの作成や、正しい制度とその活用方法を周知するための体制づくりなどが挙げられる。課題は多いものの、いずれも今後の検討が求められる重要なテーマであることが示唆された。

E. 結論

視覚系補装具の選定や処方およびフォローアップについては、今までに決まった手順や評価ツールは存在せず、視覚系補装具の適切な選定・処方と継続した活用を目的としたアセスメントシートとフォローアップシートの開発は初めての試みであった。補装具の選定・処方に関わる医療者だけではなく、視覚系補装具を実際に活用している視覚障害者当事者や作製や販売を行う業者、使用方法等を訓練する訓練士といった視覚系補装具に関わる多職種が集まり、意見交換を行う中で、補装具にまつわる問題意識を

共有し、多方面から検討することができた。

今後は、本調査の継続によりアセスメントシートおよびフォローアップシートの完成を目指し、その有効性についても検討予定である。視覚系補装具の選定や処方、フォローアップの臨床場面で活用しやすいツールとなるよう検討していきたいと考えている。

<https://www.gankaikai.or.jp/info/detail/SmartSight.html>

(令和7年4月24日参照)

F. 健康的危険情報

(分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入)

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権に出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

I. 参考文献

1) 山田明子, 奈良里紗, 清水朋美, 松井孝子, 齋藤崇志. 視覚障害者の補装具及び日常生活用具に関する実態調査, 令和5年度厚生労働行政推進事業費補助金「技術革新を視野に入れた補装具費支給制度のあり方のための研究」分担研究報告 1-21, 2024.

https://mhlwgrants.niph.go.jp/system/files/report_pdf/202317049A-buntan08.pdf

(2025年4月24日参照)

2) SKETCH研究会統計分科会. 臨床データの信頼性と妥当性. サイエンス社, 2005

3) 公益社団法人 日本眼科医会ホームページ「スマートサイト関連情報」

表1 各補装具についてのチェック項目原案

A. 義眼

アセスメントチェック項目	フォローアップチェック項目
<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズに合わせて作成したか ・装用時に痛みはないか ・装用時に違和感はないか ・装用しても自然な閉瞼が可能か ・義眼装用時の点眼について説明したか ・十分な装用テストを行ったか ・日常生活でのメンテナンスの方法を説明したか ・定期的なチェックが必要なことを説明したか ・装用時に違和感がある際の対応方法について説明した ・補装具費支給制度での耐用年数（2年）について説明したか 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して使用できているか ・汚れや傷がないか ・眼脂が増えていないか ・装用により痛みはないか ・装用により違和感はないか ・外見的に違和感がないか ・日常生活でのメンテナンスを正しく行えているか

B. 視覚障害者安全つえ

アセスメントチェック項目	フォローアップチェック項目
<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズに合わせた選定であるか ・いろいろな形状の杖があることを説明したか ・長さは適切か ・チップの種類は適切か ・使用方法について説明をしたか ・使用方法について訓練をしたか ・使用したい場面で活用できるか ・使用したい場所にあった選定であるか ・壊れた際の対処方法について説明したか ・メンテナンス方法について説明したか ・補装具費支給制度での耐用年数（2年）について説明したか 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して使用できているか ・チップが減っていないか ・長さはあっているか ・破損はないか ・今後も継続して使用できるか ・使い方が適切か

C. 眼鏡

C-1. 眼鏡（矯正用・遮光用・コンタクトレンズ・弱視用）共通項目

アセスメントチェック項目	フォローアップチェック項目
<ul style="list-style-type: none"> ・装用（使用）することでニーズが改善される ・使用したい場所で装用することができる ・十分な装用テスト（使用練習）を実施し、活用できることを確認したか ・壊れた時の対処方法を説明したか ・毎日のメンテナンス方法について説明したか ・補装具費支給制度での耐用年数（〇年）について説明したか 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して使用できているか ・見え方を低下させる傷や汚れはないか ・日常のメンテナンスはできているか ・破損部分はないか

C-2. 眼鏡（矯正用）に特有な項目

アセスメントチェック項目	フォローアップチェック項目
<ul style="list-style-type: none"> ・ 30 分程度の連続使用で疲れることはないか ・ ニーズにあった見たいものを実際に見ながら選定したか ・ 使用したい距離にあわせて選定を行ったか ・ 眼鏡の使い方について説明をしたか ・ 使用中、疲れを感じた時の対処法を説明したか ・ 合わないと感じた時の対処法を説明したか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ フレームのゆがみがないか ・ 瞳孔間距離は適切か ・ 度数は適切か

C-3. 眼鏡（遮光用）に特有な項目

アセスメントチェック項目	フォローアップチェック項目
<ul style="list-style-type: none"> ・ 抵抗なく装用しやすい色である ・ フレームによる違和感はないか ・ まぶしさを感じる場所で試したか ・ 好きな色だけでなく、緑系、茶系、グレイ系、黄色系 すべての色を試したか ・ 装用により色の見え方に変化がでることを説明したか ・ フレームの違いについて説明したか ・ 暗く感じた時の対処法を説明したか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 退色によるまぶしさはないか ・ 装用によって暗く感じることはないか ・ 度数が入る場合には度数が適切か

C-4. 眼鏡（コンタクトレンズ）に特有な項目

アセスメントチェック項目	フォローアップチェック項目
<ul style="list-style-type: none"> ・ レンズのフィッティングは適切か ・ 装用によって痛みはないか ・ 装用によって違和感はないか ・ 痛みや違和感がでた際の対処方法について説明をしたか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 装用によって痛みはないか ・ 装用によって違和感はないか ・ レンズのフィッティングは適切か ・ 眼球表面の傷はないか

C-5. 眼鏡（弱視用 掛けめがね式）に特有な項目

アセスメントチェック項目	フォローアップチェック項目
<ul style="list-style-type: none"> ・ 見たいものが見える倍率であるか ・ いくつかの倍率を試して選んだか ・ 近用キャップを主鏡からはずしてはめかえることで、倍率を変えられることを説明したか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近用キャップの倍率は適切か

C-6. 眼鏡（弱視用 焦点調整式）に特有な項目

アセスメントチェック項目	フォローアップチェック項目
<ul style="list-style-type: none"> ・見たいものが見える倍率であるか ・いくつか別の倍率を試した上で決定したものであるか ・ニーズに合った見たいものを見ながら選定したか ・屈折状況に合わせて選定し、使い方を説明・練習したか ・眼鏡を装用している場合には接眼部のゴムを外側に折り返して使うことを説明したか ・遠視がある場合には、必ず、遠用眼鏡を装用して使うことを説明したか ・スポッティング、スキヤニングを練習したか ・ピント合わせを練習したか ・ピント合わせについて説明したか ・太陽を見ないことを説明したか ・歩きながら使用しないことを説明したか 	<ul style="list-style-type: none"> ・倍率は適切か ・使い方に間違いはないか

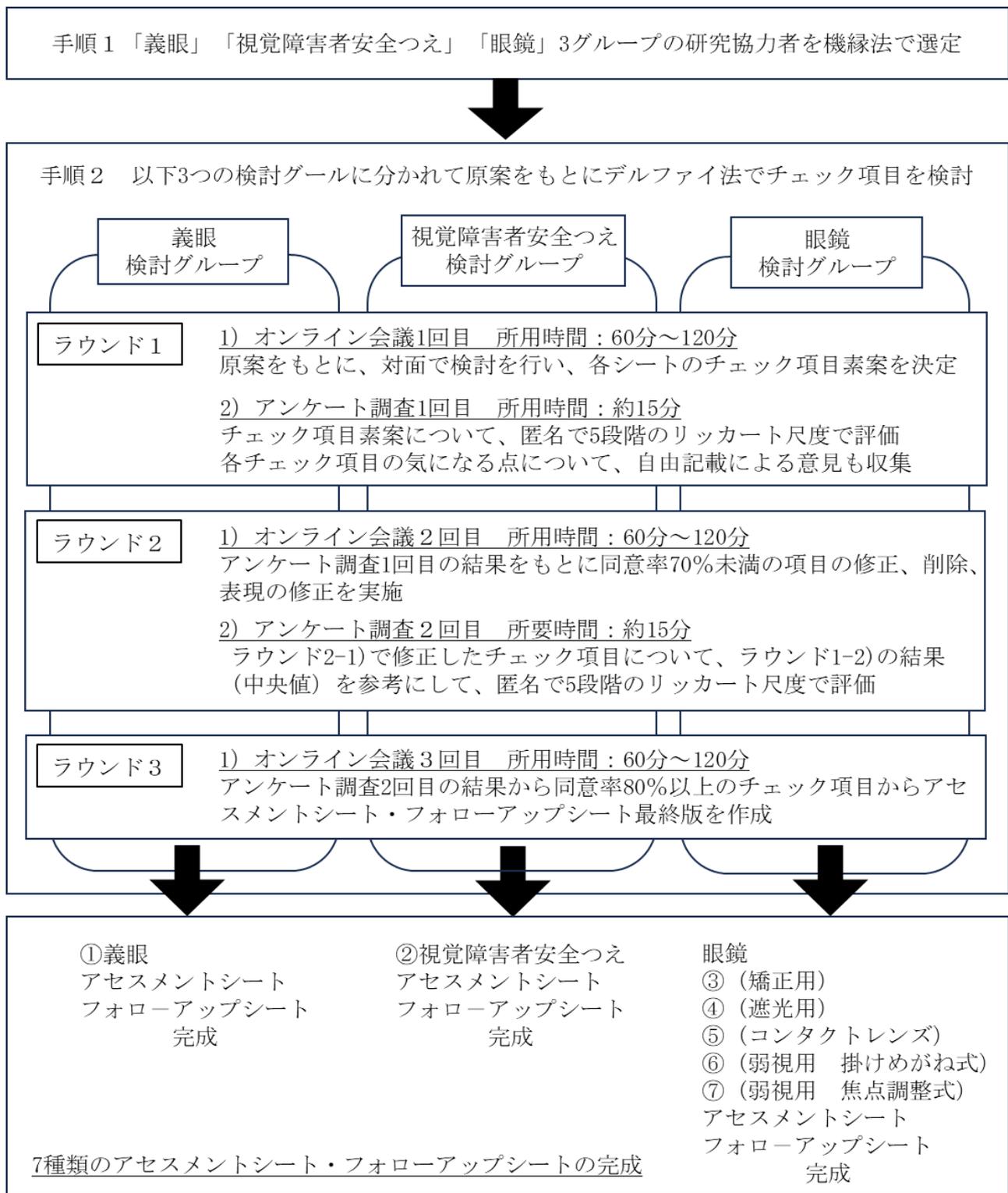


図1 研究の方法手順

表2 「義眼」第1回オンライン会議検討結果

A. アセスメント項目

原案		第1回オンライン会議後素案
ニーズに合わせて作成したか	変更	ニーズと制度活用上の制約について相談した上での選定したか
装用時に痛みはないか	統合	違和感や痛みに対する十分な対応方法についてガイダンスを行い、違和感がとれない場合には眼科を受診するよう説明したか
装用時に違和感はないか		
装用しても自然な閉瞼が可能か	変更	眼の開閉についてチェックをしたか
義眼装用時の点眼について説明したか	削除	
十分な装用テストを行ったか	削除	
日常生活でのメンテナンスの方法を説明したか	変更なし	日常生活でのメンテナンスの方法を説明したか
定期的なチェックが必要なことを説明したか	変更なし	定期的なチェックが必要なことを説明したか
装用時に違和感がある際の対応方法について説明した	削除	
補装具費支給制度での耐用年数（2年）について説明したか	変更なし	補装具費支給制度での耐用年数（2年）について説明したか
	新規項目	出し入れの方法について説明・練習を行ったか

B. フォローアップ項目

原案		第1回オンライン会議後素案
継続して使用できているか	削除	
汚れや傷はないか	変更なし	汚れや傷はないか
眼脂が増えていないか	統合	義眼を装用しての問題（ <input type="checkbox"/> 痛み <input type="checkbox"/> 違和感 <input type="checkbox"/> 眼脂 <input type="checkbox"/> 視線の違和感 <input type="checkbox"/> その他）はないか
装用により痛みはないか		
装用により違和感はないか		
外見的に違和感はないか		
日常生活でのメンテナンスを正しく行えているか	変更なし	日常生活でのメンテナンスを正しく行えているか
	新規項目	義眼が動いたり、ずれたり、外れたりしていないか
	新規項目	眼窩内の変化はおきていないか

表3 「視覚障害者安全つえ」第1回オンライン会議検討結果

A. アセスメント項目

原案		第1回オンライン会議後素案
ニーズに合わせた選定であるか	変更	今回購入する予定の杖はどちらか <input type="checkbox"/> 普通用 <input type="checkbox"/> 携帯用 <input type="checkbox"/> 身体支持併用
いろいろな形状の杖があることを説明したか	削除	
長さは適切か	変更	普通用および携帯用は胸から脇の下くらいの長さ、身体支持併用は腰までの長さになっているか
チップの種類は適切か	削除	
使用方法について訓練をしたか	変更	実物を用いて、つえの使い方の説明をうけたり、練習をする予定はあるのか (→予定がない場合にはスマートサイトで適切な施設へつなぐ)
使用したい場所で活用できるか	削除	
使用したい場所にあった選定であるか	削除	
壊れた際の対処方法について説明したか	削除	
メンテナンス方法について説明したか	削除	
補装具費支給制度での耐用年数(2年)について説明したか	一部修正	補装具費支給制度での耐用年数や修理について説明したか

B. フォローアップ項目

原案		第1回オンライン会議後素案
継続して使用できているか	変更なし	継続して使用できているか
	新規項目	使用しているつえはいつ、どのように購入したか ()年 <input type="checkbox"/> 補装具費支給制度を利用 <input type="checkbox"/> 自費
チップは減っていないか	変更	つえを使用していて不安なことや問題に感じることはあるか
長さはあっているか	変更	普通用および携帯用は胸から脇の下くらいの長さ、身体支持併用は腰までの長さになっているか
破損はないか	削除	
今後も継続して使用できるか	削除	
使い方が適切か	変更	専門家によるつえの使い方の説明や練習を受けたことはあるか (→ ない場合にはスマートサイトで適切な施設へつなぐ)

表4. 「眼鏡」第1回オンライン会議検討結果

A. アセスメント項目

A-1. 眼鏡（矯正用・遮光用・コンタクトレンズ・弱視用）共通項目

原案		第1回オンライン会議後素案
装用（使用）することでニーズが改善される	削除	
使用したい場所で装用することができる	削除	
十分な装用テスト（使用練習）を実施し、活用できることを確認したか	一部修正	装用テスト（使用練習）を実施し、活用できることを確認したか
壊れた時の対処方法を説明したか	削除	
毎日のメンテナンス方法について説明したか	削除	
補装具費支給制度での耐用年数（〇年）について説明したか	一部修正	補装具費支給制度での耐用年数（〇年）や修理について説明したか

A-2. 眼鏡（矯正用）に特有な項目

原案		第1回オンライン会議後素案
30分程度の連続使用で疲れることはないか	削除	
ニーズにあった見たいものを実際に見ながら選定したか	変更	どんな時に使用する眼鏡であるかを説明したか
使用したい距離にあわせて選定を行ったか	変更	どのような距離（約〇cm）に合わせた眼鏡であるかを説明したか
眼鏡の使い方について説明したか	一部修正	眼鏡の使い方について説明をしたか
使用中、疲れを感じた時の対処法を説明したか	削除	
合わないと感じた時の対処法を説明したか	変更	合わないと感じた際、眼鏡店に行く前に眼科を受診し、疾患の進行状況等を確認することが大切であることを説明したか

A-3. 眼鏡（遮光用）に特有な項目

原案		第1回オンライン会議後素案
抵抗なく装用しやすい色であるか	変更	心理的、環境的に抵抗なく継続して装用しやすい色であるか
フレームによる違和感はないか	変更なし	
まぶしさを感じる場所で試したか	変更	できる限り、まぶしいと感じる模擬環境で選定をしたか
好きな色だけでなく、緑系、茶系、グレー系、黄色系、すべての色を試したか	変更	まぶしさなどの問題点を改善することができる色であるか
装用により色の見え方に変化がでることを説明したか	変更なし	装用により色の見え方に変化がでることを説明したか
フレームの違いについて説明したか	削除	
いろいろなフレーム（オーバーグラス型、前かけ式など）があることの説明したか	変更なし	いろいろなフレーム（オーバーグラス型、前かけ式など）があることの説明したか
暗く感じた時の対処法を説明したか	一部変更	暗く感じた時は眼鏡をはずす（クリップなら跳ね上げる）ことを説明したか

A-4. 眼鏡（コンタクトレンズ）に特有な項目

原案		第1回オンライン会議後素案
レンズのフィッティングは適切か	変更なし	レンズのフィッティングは適切か
装用によって痛みはないか	統合	装用によって痛みや違和感はないか
装用によって違和感はないか		
痛みや違和感がでた際の対処方法について説明したか	削除	

A-5. 眼鏡（弱視用 掛けめがね式）に特有な項目

原案		第1回オンライン会議後素案
見たいものが見える倍率であるか	変更なし	見たいものが見える倍率であるか
いくつかの倍率を試して選んだか	変更なし	いくつかの倍率を試して選んだか
近用キャップを主鏡からはずしてはめかえることで、倍率を変えられることを説明したか	変更なし	近用キャップを主鏡からはずしてはめかえることで、倍率を変えられることを説明したか
	新規項目	掛けめがね式が他の補助具よりも有効であることを確かめたか

A-6. 眼鏡（弱視用 焦点調整式）に特有な項目

原案		第1回オンライン会議後素案
見たいものが見える倍率であるか	変更なし	見たいものが見える倍率であるか
いくつか別の倍率を試した上で決定したのもであるか	変更なし	いくつか別の倍率を試した上で決定したのもであるか
ニーズに合った見たいものを見ながら選定したか	変更なし	ニーズに合った見たいものを見ながら選定したか
屈折状況に合わせて選定し、使い方を説明・練習したか	変更なし	屈折状況に合わせて選定し、使い方を説明・練習したか
眼鏡を装用している場合には接眼部のゴムを外側に折り返して使うことを説明したか	変更なし	眼鏡を装用している場合には接眼部のゴムを外側に折り返して使うことを説明したか
遠視がある場合には、必ず、遠用眼鏡を装用して使うことを説明したか	変更なし	遠視がある場合には、必ず、遠用眼鏡を装用して使うことを説明したか
スポッティング、スキャニングを練習したか	変更	見たい物のとらえかたや探し方を練習したか
ピントの合わせ方を練習したか	変更なし	ピントの合わせ方を練習したか
ピントの合わせ方について説明したか	変更なし	ピントの合わせ方について説明したか
太陽を見ないことを説明したか	変更なし	太陽を見ないことを説明したか
歩きながら使用しないことを説明したか	変更なし	歩きながら使用しないことを説明したか

B. フォローアップ項目

B-1. 眼鏡（矯正用・遮光用・コンタクトレンズ・弱視用）共通項目

原案		第1回オンライン会議後素案
継続して使用できているか	変更なし	継続して使用できているか
見え方を低下させる傷や汚れはないか	変更なし	見え方を低下させる傷や汚れはないか
日常のメンテナンスはできているか	削除	
破損部分はないか	変更なし	破損部分はないか

B-2. 眼鏡（矯正用）に特有な項目

原案		第1回オンライン会議後素案
フレームにゆがみはないか	変更なし	フレームにゆがみはないか
瞳孔間距離は適切か	削除	
度数は適切か	変更なし	度数は適切か

B-3. 眼鏡（遮光用）に特有な項目

原案		第1回オンライン会議後素案
退色によるまぶしさはないか	一部修正	装用によってまぶしさはないか
装用によって暗く感じることはないか	変更なし	装用によって暗く感じることはないか
度数が入る場合には度数が適切か	変更なし	度数が入る場合には度数が適切か
	新規項目	フレームにゆがみはないか

B-4. 眼鏡（コンタクトレンズ）に特有な項目

原案		第1回オンライン会議後素案
装用によって痛みはないか	統合	装用によって痛みや違和感はないか
装用によって違和感はないか		
レンズのフィッティングは適切か	変更なし	レンズのフィッティングは適切か
眼球表面の傷はないか	変更なし	眼球表面の傷はないか
	新規項目	コンタクトケースは清潔か

B-5. 眼鏡（弱視用 掛けめがね式）に特有な項目

原案		第1回オンライン会議後素案
近用キャップの倍率は適切か	変更なし	近用キャップの倍率は適切か
	新規項目	フレームにゆがみはないか

B-6. 眼鏡（弱視用 焦点調整式）に特有な項目

原案		第1回オンライン会議後素案
倍率は適切か	変更なし	倍率は適切か
使い方に間違いはないか	変更なし	使い方に間違いはないか

表 5. 「義眼」第 1 回アンケート調査結果

A. アセスメント項目

チェック項目	中央値	同意率
ニーズと制度活用上の制約について相談した上での選定したか	2. 重要	100%
違和感や痛みに対する十分な対応方法についてガイダンスを行い、違和感がとれない場合には眼科を受診するよう説明したか	1. 非常に重要	87.5%
眼の開閉についてチェックをしたか	1. 非常に重要	100%
日常生活でのメンテナンスの方法を説明したか	1. 非常に重要	100%
定期的なチェックが必要なことを説明したか	1. 非常に重要	100%
補装具費支給制度での耐用年数（2 年）について説明したか	2. 重要	87.5%
出し入れの方法について説明・練習を行ったか	1. 非常に重要	87.5%

B. フォローアップ項目

チェック項目	中央値	同意率
汚れや傷はないか	1. 非常に重要	100%
義眼を装用しての問題（□痛み □違和感 □眼脂 □視線の違和感 □その他）はないか	1. 非常に重要	100%
日常生活でのメンテナンスを正しく行えているか	2. 重要	87.5%
義眼が動いたり、ずれたり、外れたりしていないか	1. 非常に重要	87.5%
眼窩内の変化はおきていないか	2. 非常に重要	87.5%

表 6. 「視覚障害者安全つえ」第 1 回アンケート調査結果

A. アセスメント項目

チェック項目	中央値	同意率
今回購入する予定の杖はどちらか □普通用 □携帯用 □身体支持併用	1. 非常に重要	88.9%
普通用および携帯用は胸から脇の下くらいの長さ、身体支持併用は腰までの長さになっているか	1. 非常に重要	88.9%
実物を用いて、つえの使い方の説明をうけたり、練習をする予定はあるのか (→予定がない場合にはスマートサイトで適切な施設へつなぐ)	1. 非常に重要	88.9%
補装具費支給制度での耐用年数や修理について説明したか	2. 重要	88.9%

B. フォローアップ項目

チェック項目	中央値	同意率
継続して使用できているか	2. 重要	88.9%
使用しているつえはいつ、どのように購入したか () 年 □補装具費支給制度を利用 □ 自費	2. 重要	66.7%
つえを使用していて不安なことや問題に感じることはあるか	1. 非常に重要	100%
普通用および携帯用は胸から脇の下くらいの長さ、身体支持併用は腰までの長さになっているか	1. 非常に重要	88.9%
専門家によるつえの使い方の説明や練習を受けたことはあるか (→ ない場合にはスマートサイトで適切な施設へつなぐ)	2. 非常に重要	100%

表 7. 「眼鏡」第 1 回アンケート調査結果

A. アセスメント項目

A-1. 眼鏡（矯正用・遮光用・コンタクトレンズ・弱視用）共通項目

チェック項目	中央値	同意率
装用テスト（使用練習）を実施し、活用できることを確認したか	1. 非常に重要	100.0%
補装具費支給制度での耐用年数（〇年）や修理について説明したか	2. 重要	88.9%

A-2. 眼鏡（矯正用）に特有な項目

チェック項目	中央値	同意率
どんな時に使用する眼鏡であることを説明したか	1. 非常に重要	100%
どのような距離（約〇cm）に合わせた眼鏡であることを説明したか	1. 非常に重要	100%
眼鏡の使い方について説明をしたか	1. 非常に重要	89%
合わないと感じた際、眼鏡店に行く前に眼科を受診し、疾患の進行状況等を確認することが大切であることを説明したか	2. 重要	77.8%

A-3. 眼鏡（遮光用）に特有な項目

心理的、環境的に抵抗なく継続して装用しやすい色であるか	2. 重要	88.9%
できる限り、まぶしいと感じる模擬環境で選定をしたか	1. 非常に重要	100%
まぶしさなどの問題点を改善することができる色であるか	1. 非常に重要	100%
装用により色の見え方に変化がでることを説明したか	1. 非常に重要	100%
いろいろなフレーム（オーバークラス型、前かけ式など）があることの説明したか	2. 重要	77.8%
暗く感じた時は眼鏡をはずす（クリップなら跳ね上げる）ことを説明したか	2. 重要	100%

A-4. 眼鏡（コンタクトレンズ）に特有な項目

チェック項目	中央値	同意率
レンズのフィッティングは適切か	1. 非常に重要	100%
装用によって痛みや違和感はないか	1. 非常に重要	100%

A-5. 眼鏡（弱視用 掛けめがね式）に特有な項目

チェック項目	中央値	同意率
見たいものが見える倍率であるか	1. 非常に重要	100%
いくつかの倍率を試して選んだか	1. 非常に重要	100%
近用キャップを主鏡からはずしてはめかえることで、倍率を変えられることを説明したか	2. 重要	100%
掛けめがね式が他の補助具よりも有効であることを確かめたか	1. 非常に重要	100%

A-6. 眼鏡（弱視用 焦点調整式）に特有な項目

チェック項目	中央値	同意率
見たいものが見える倍率であるか	1. 非常に重要	100%
いくつか別の倍率を試した上で決定したのもであるか	1. 非常に重要	100%
ニーズに合った見たいものを見ながら選定したか	1. 非常に重要	100%
屈折状況に合わせて選定し、使い方を説明・練習したか	1. 非常に重要	100%
眼鏡を装用している場合には接眼部のゴムを外側に折り返して使うことを説明したか	2. 重要	100%
遠視がある場合には、必ず、遠用眼鏡を装用して使うことを説明したか	2. 重要	100%
見たい物のとらえかたや探し方を練習したか	1. 非常に重要	88.9%
ピントの合わせ方を練習したか	1. 非常に重要	88.9%
ピントの合わせ方について説明したか	2. 重要	77.8%
太陽を見ないことを説明したか	1. 非常に重要	77.8%
歩きながら使用しないことを説明したか	1. 非常に重要	77.8%

B. フォローアップ項目

B-1. 眼鏡（矯正用・遮光用・コンタクトレンズ・弱視用）共通項目

チェック項目	中央値	同意率
継続して使用できているか	1. 非常に重要	100%
見え方を低下させる傷や汚れはないか	2. 重要	88.9%
破損部分はないか	1. 非常に重要	100%

B-2. 眼鏡（矯正用）に特有な項目

チェック項目	中央値	同意率
フレームにゆがみはないか	2. 重要	100%
度数は適切か	1. 非常に重要	100%

B-3. 眼鏡（遮光用）に特有な項目

チェック項目	中央値	同意率
装用によってまぶしさはないか	1. 非常に重要	100%
装用によって暗く感じることはないか	1. 非常に重要	100%
度数が入る場合には度数が適切か	1. 非常に重要	100%
フレームにゆがみはないか	2. 重要	88.9%

B-4. 眼鏡（コンタクトレンズ）に特有な項目

チェック項目	中央値	同意率
装用によって痛みや違和感はないか	1. 非常に重要	100%
レンズのフィッティングは適切か	1. 非常に重要	100%
眼球表面の傷はないか	1. 非常に重要	88.9%
コンタクトケースは清潔か	1. 非常に重要	100%

B-5. 眼鏡（弱視用 掛けめがね式）に特有な項目

チェック項目	中央値	同意率
近用キャップの倍率は適切か	1. 非常に重要	100%
フレームにゆがみはないか	1. 非常に重要	100%

B-6. 眼鏡（弱視用 焦点調整式）に特有な項目

チェック項目	中央値	同意率
倍率は適切か	1. 非常に重要	100%
使い方に間違いはないか	1. 非常に重要	100%